©へるす出版

外来で看護師が子どもを看る基本ポイント

～家庭での事故予防，トリアージ，ホームケア，急変対応，子ども虐待～

特集にあたって

外来・クリニックでの小児救急看護の基本ポイントを知ろう

国内の医療情勢は，平均在院日数の短縮化，在宅医療の推進，医療技術の進歩などにより急激な変化を求められています。外来診療においても，医療・看護ニーズは多様化・高度化してきていることを皆さんも感じているのではないでしょうか。病院での管理においては，外来－病棟・各外来の一元化をはかり，効率化や質の改善を行っている施設が多くなっています。これにより，小児病棟の看護師が外来勤務にあたる，小児科以外の外来看護師が小児科外来の勤務にあたる，あるいは夜間・休日診療時のみ外来で子どもを看るという機会が増加しているように思われます。

本特集では，初めて小児科外来で看護を行う場合，小児科ではないが外来で子どもを看る場合，また子どもを看る経験の少ない看護師を外来で受け入れる場合を想定して，外来で看護師が子どもを看る基本ポイントを５つの項に沿ってまとめました。外来勤務を行う前の事前学習，勤務中に「ちょっと確認」という場面で活用しやすいように，各項目は基本ポイントと事例という基本構成としています。外来やクリニックでケアを行うにあたり実用書としても活用してください。なお，本誌2014年４月号～2015年９月号まで「認定看護師と一緒に学ぶ 現場目線の小児救急看護！」を連載しましたので，併せて参考にしてもらえると幸いです。

執筆者はすべて小児救急看護認定看護師です。小児救急看護認定看護師は，小児救急患者の受け入れ困難による痛ましい事例の発生，殺到する小児救急患者に対する適切な判断とケア（トリアージ）の必要性の増加，子どもの病気に対する家庭でのケア能力の低下，子どもの事故による高い死亡率が変化をみないこと，子ども虐待の急激な顕在化などの社会問題を背景に育成が始まりました。小児救急看護認定看護師が誕生して2015年度で10年が経過しました。７年前から小児救急看護認定看護師会を組織し，５つのワーキンググループ（救急蘇生，子ども虐待，事故予防，ホームケア）での活動を行ってきました。小児救急看護認定看護師が実践から得てきた知識と技術を個人レベルで留めるのではなく，同認定看護師会の活動を通じて発展させてきました。その成果を子どものケアにあたる皆さんと共有できればという思いから，本特集を企画しました。外来で子どもを看る際の一助になることを願うとともに，本特集が小児救急看護のさらなる発展の機会となることを期待しています。

総合病院国保旭中央病院
小児救急看護認定看護師
小児救急看護認定看護師会会長
大島　誠 Oshima Makoto